（９７）岩手県釜石市の宝蔵鉱山跡

探査の手引きとした参考文献（１）によれば、この鉱山の鉱種は金、銀、銅であり、主に銅を産出していた。探査の事前調査として、国土地理院の地形図サービス、Ｙａｈｏｏの地図サービスを、インターネット経由で利用し、古い文献である参考文献（１）中の地図と比較対照をした。探査に出かけ、現地において、沢の入口付近の鉱染した転石、沢中のマウント、そして坑口跡を視認し、鉱山跡を確認した。

現地への経路は次の通りである。ＪＲ釜石線と平行に走っている２８３号線で、小佐野駅付近に行き着く。図２でわかろう。この付近で、日向ダムに向かって、北西方向に延びている道を進んでいく。図２には、「小川温泉」名が記されているが、図１には無い。図３には「白水温泉」名が記されている。？？？　図１，図２、参考文献からの図３を相互に比較対照し、現地の予想を立て、それに基づいて、現地付近の探査を行った。結果鉱山跡を確認した。図１に、探査結果を記入している。図３によれば幾つかの坑口がある。今回は１つだけの坑口跡を見いだした。夏であり、草木が生い茂っているので、適当に切り上げた。ここも、草木の枯れた時期に、再探査を行いたい。

探査日　　２０１１年　８月

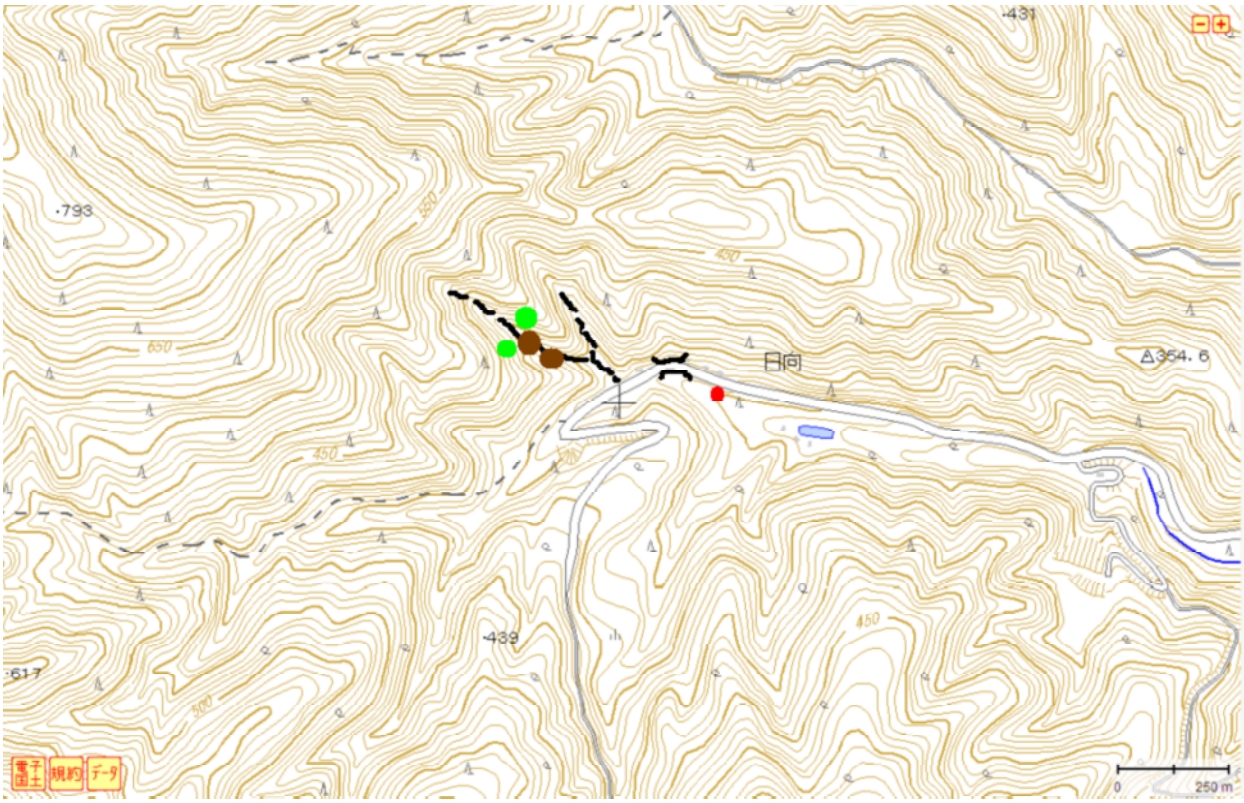
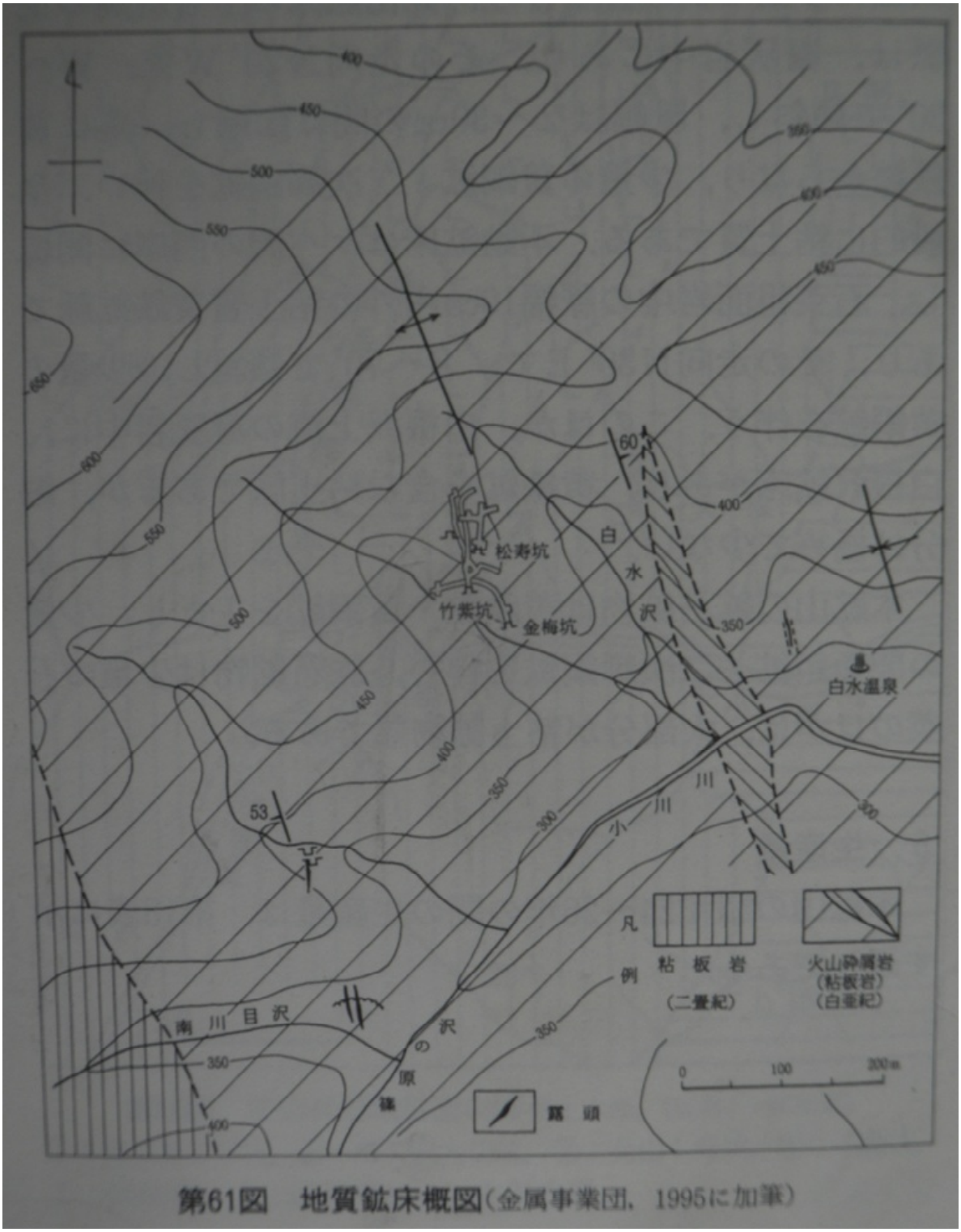


図１　国土地理院の地図サービスホームページより複写掲載。赤丸が停留所標識。その先に橋がある。黒破線が一応林道。消えかかっている消えているところでは沢を登ればよい。沢は無理なく遡上できる。黄緑色丸が坑口跡。茶色丸がマウント。

図２　Ｙａｈｏｏの地図サービスより複写掲載。右端にある小佐野駅付近で、北西に延びている谷を日向ダムに向かって進んでいく。日向ダムから、「小川温泉」に進む。温泉らしき建物はわからなかったが、その当たりの道路脇に停留所があり、「小川温泉」の標識が立っていた。この少し先が現地である。



第61図　地質鉱床概図(金属事業団，1995に加筆)

図３　参考文献（１）より複写掲載。図中の「白水温泉」は、図２中の「小川温泉」と判断した。この図には、川や沢は記載されているが、林道は記載されていない。小川川に沿って現在では立派なコンクリート舗装の道が延びている。図１，図２の如くである。

鉱山跡写真

写真１　「小川温泉」の停留所標識が、現在でも生きていた。この付近に、「小川温泉」があったはず。向かいのホテルのような「廃屋」がそうなのかも知れない。付近で、温泉が沸き出しているようにも思えないが。鉱泉の沸かし湯温泉だったのかも知れない。

写真２　停留所から先に進み、橋を渡った先、右側に廃屋があった。この廃屋の少し先で、道路に沿って右側を流れている沢に入る。撮影しているこの場所からだと、５０ｍ～１００ｍの間ぐらいの距離か。

写真３　入った沢には支流があり、北に延びている。主流は写真の左側が上流である。この支流沢の入口付近に、鉱染した転石が結構落ちていた。この支流の先に鉱山跡があるに違いないと確信した。

写真４　沢の左岸少し高いところにあった大きな坑口跡。中央の黒い部分が坑口。この当たりで、対岸である沢の右岸の高い所にも、黒い穴の坑口跡を見つけた。

採集鉱物写真

それ程の標本ではないので、未掲載。

参考文献

（１）「新岩手県鉱山誌」、高橋維一郎、南部松夫、東北大学出版会、２００３年。